

「(仮称) 宇都宮市カーボンニュートラルロードマップ」(素案) について

1 市ロードマップの概要

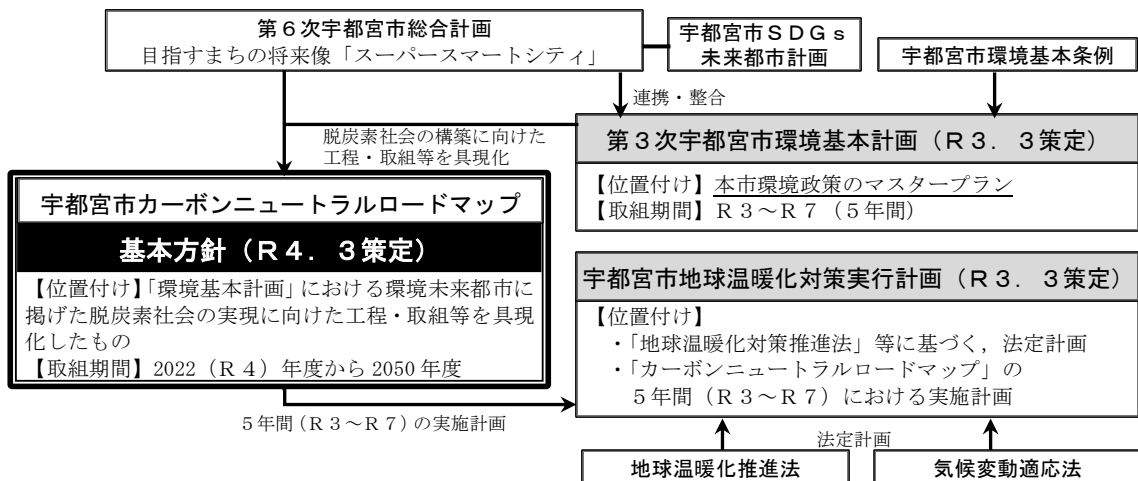
(1) 策定の目的

本市における 2050 年カーボンニュートラルの実現に向けて、本市全体で長期的なビジョンを共有し、市民・事業者・行政が一丸となって脱炭素化に取り組むために策定するもの

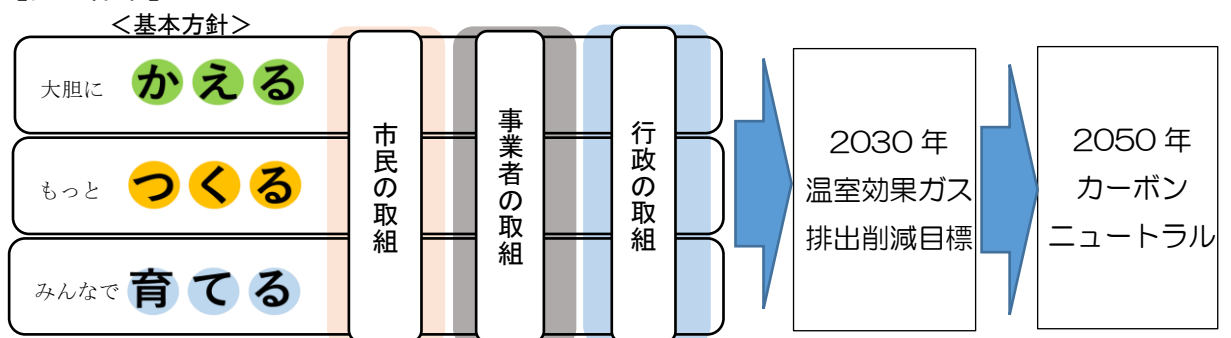
(2) 位置付け・役割

- 本市が目指すスーパースmartシティを構成する社会のひとつである「脱炭素社会」の実現やSDGsの達成に貢献するため、「宇都宮市カーボンニュートラルの実現に向けた基本方針 (R 4. 3 策定)」に基づき、2050年に目指す社会の姿やその社会の実現に向けた長期のロードマップ (工程) を示すもの
- 2030年度の温室効果ガス削減目標を掲げ、市民・事業者・行政 (市役所) などの「取組の方向性」や「取組目標」などを示すことで、行動変容を促すもの

【図：位置付け】



【図：体系】



2 市ロードマップ（素案）の内容・特徴

(1) 新たな 2030 年度温室効果ガス排出削減目標等の設定

ア 市域全体の目標（別冊 P10）

- ・ 現行の地球温暖化対策実行計画（区域施策編）において設定している温室効果ガス削減目標（2030 年に 2013 年度比で▲27%）について、2050 年カーボンニュートラルを見据え、国の目標（▲46%、さらに▲50%の高みを目指す）を踏まえて、削減目標を設定

➤ 市域全体の目標：2030 年に 2013 年度比で▲50%（418 万 t→209 万 t）

イ 主体別の目標（別紙 1, 別冊 P10）

- ・ 本市が目指す脱炭素社会の姿を共有し、我が事と捉えていただくため、国や県のロードマップにおける分野別（産業・民生・運輸など）の削減目標等を踏まえ、本市独自に市民・事業者における主体別の 2030 年度削減目標を設定
- ・ 行政（市役所）として、積極的な取り組み姿勢を示し、率先垂範となるよう、廃棄物（ごみ処理）や長期的な技術革新等が必要な分野（電化への転換が困難な設備における重油等の燃料利用）の排出を除き、2030 年にカーボンニュートラルを達成する目標値を設定

➤ 市民の目標：2030 年に 2013 年度比で▲60%

(145 万 t→60 万 t) ▲85 万 t

➤ 事業者の目標：2030 年に 2013 年度比で▲45%

(245 万 t→135 万 t) ▲110 万 t

➤ 行政の目標：2030 年に 2013 年度比で▲75%

(11.2 万 t→2.8 万 t) ▲8.4 万 t

(廃棄物分野を除くと▲85%、廃棄物分野がない県は▲80%,)

ウ 取組の方向性と取組目標（別紙 2, 別冊 P13, P17, P21）

- ・ 国や県の取組・取組目標との整合を図りつつ、本市の特徴である「もったいない運動の実践」や「公共交通の利用」などの取組を加え設定

(2) 3つのアクションを牽引する加速化プロジェクトの設定 (別冊P22~23)

- ・ 「NCCとの好循環」や「分野横断的な視点」などをもとに基本方針で掲げた3つのアクションを牽引していくためのプロジェクトを設定

- ▶ かえる・・・スマート&ゼロカーボンムーブプロジェクト
⇒ 公共交通利用環境の向上による利用促進と、モビリティの脱炭素化を図り、移動に伴うCO₂排出ゼロを目指すもの
- ▶ つくる・・・再生可能エネルギー最大限導入・活用プロジェクト
⇒ 周辺環境や自然との調和を図りながら、再生可能エネルギーを最大限導入し、脱炭素化と地域経済の活性化に寄与することで、市域にメリットのある再エネ設備となることを目指すもの
- ▶ 育てる・・・カーボンニュートラルなまちづくりプロジェクト
⇒ LRT沿線エリアを、先行的に脱炭素化を推進するモデル地区に設定し、様々な取組を実施し、効果的な取組を市内に波及させることで、市域全体の脱炭素化を牽引していくもの

(3) 各主体における様々なアクションの提示 (別冊P12~21)

- ・ 各主体において取り組むべき様々なアクションやその効果を視覚的に分かりやすく示し、行動変容を促すものとした。

3 スケジュール

令和4年	8月	パブリックコメント
	9月	宇都宮市カーボンニュートラルロードマップ策定・公表